

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 18 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370488

研究課題名(和文) 遼金元清文字資料の研究 電子データ化を中心として

研究課題名(英文) A study of the languages written in extinct scripts during the Liao, Jin, Yuan and Qing Dynasties: Focusing on digitization of the materials

研究代表者

吉池 孝一 (YOSHIIKE, Koichi)

愛知県立大学・外国語学部・教授

研究者番号：30220586

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：中国の民族古文字資料および関連する漢字資料をデジタル画像化し公表した。契丹文字・女真文字・モンゴル文字・パспа文字・満洲文字の拓本、パспа文字の印鑑、パспа文字と満洲文字の貨幣などの資料である。拓本の大部分は長田夏樹氏旧蔵のコレクションであり、印鑑と貨幣などは古代文字資料館(愛知県立大学E511)所蔵である。これらの資料を、世界の研究者の自由な利用に供するため、ウェブサイト「古代文字資料館」に公開するとともに書籍として刊行した。また当該文字と資料についての研究を雑誌『KOTONOHA』などに掲載した。

研究成果の概要(英文)：We digitized old language materials from China: rubbed copies of inscriptions in the Khitan, Jurchen, Mongolian, Phags-pa and Manchu scripts; seals in the Phags-pa script; coins in the Phags-pa and Manchu scripts etc. Almost all the rubbed copies are from the OSADA collection. The seals and coins are owned by Ancient Writing Library (Aichi Prefectural University E511). In order to make them freely available to researchers worldwide we uploaded the data to the website of Ancient Writing Library and also printed them in book form. Several articles about the scripts and materials were published in the journal KOTONOHA.

研究分野：人文学

キーワード：中国民族古文字 電子資料化 実物資料 契丹文字 女真文字 西夏文字 パспа文字 満洲文字

1. 研究開始当初の背景

日本に存在する所謂「中国民族古文字」の調査は着実に行われているが、分野に偏りがあり、十分と言える状況にはない。

故長田夏樹氏の旧蔵拓本（現在は長田家所蔵、愛知県立大学の古代文字資料館が管理している）の予備的な調査によると、遼、金、元、清の民族古文字に係わる資料が多数を占め、多くは初期に採拓されたものであり、世界的にみても貴重な財産と推定することができた。また愛知県立大学の古代文字資料館は、拓本、印鑑、貨幣、錘など、遼、西夏、金、元、清にわたる各種の民族古文字資料の実物を所蔵しており、特にパспа文字の印鑑、貨幣、錘、拓本は、日本でも有数のコレクションとなっている。これらの資料と他機関所蔵の資料とを比較し、資料としての価値を明らかにすることは急務な仕事であった。

また、遼の契丹文字、金の女真文字、元のモンゴル文字およびパспа文字、清の満洲文字など、民族古文字資料の解読や判読において、研究者が第一になすべきことは、実物の鮮明な画像の入手であるが、書籍に収められた画像においてもウェブサイト公表されたデジタル画像においても、研究に着手できるだけの鮮明な文字資料が提供されているかという点、必ずしも十全な状況にはなかった。

このような状況を鑑みれば、資料を公表し得る立場にある研究者として第一に為すべきことは、資料をデジタル化し、鮮明なデジタル画像を、必要とするすべての研究者に提供し、研究の基礎を固めることであろう。

2. 研究の目的

長田夏樹氏旧蔵の遼・金・元・清に渡る民族古文字資料（契丹文字、女真文字、モンゴル文字、パспа文字、満洲文字）の拓本と愛知県立大学古代文字資料館所蔵の各種文字資料を文献学の観点より調査し、その価値を明らかにした上で、鮮明なデジタル画像として公開する。

デジタル画像の公開と同時に、民族古文字資料研究の分野における、初期の日本の研究者による業績の意義を、研究史の立場から明らかにする。

3. 研究の方法

まず、他機関が所蔵する同種の資料との異同を調査し、資料としての価値を明らかにする。次いで、資料を文化財撮影用特殊カメラ（画面の四隅と中心で画像の歪みが出ない）等で撮影することによってデジタル資料化し、鮮明なデジタル画像をウェブサイトに掲載する。それとともに図書としても刊行し、日本の図書館および研究者に配布する。同時に、日本の研究者の初期の研究を調査し、研究史のなかに位置づける。

4. 研究成果

遼の「大遼大横帳蘭陵郡夫人建静安寺碑拓本」は、漢文面の碑額と碑身、契丹大字面の漢文碑額と契丹大字碑身の4種の拓本が揃っている。碑身の摩滅は進んでいるが、現存する拓本の中でも第一級の価値を有する世界に冠たる資料と言い得る。

金の「大金得勝陀頌碑拓本」については、女真文面はなく、漢文面の碑額と碑身のみであるが、公開されている何れの資料よりも鮮明なものとなっている。

同じく金の「女真進士題名碑拓本」は、採拓の年代を異にする3種の拓本があり、碑石の摩滅の過程を示すことができた。3種の拓本の内の1本は、これまで公表されているものなかで、最も初期のものに相当する。

元の「張氏先瑩碑拓本」、「達魯花赤竹君之碑拓本」は、漢文面とモンゴル文面の両者を収めるが、モンゴル文面の拓本は極めて鮮明なものとなっている。以上を含め、拓本33点につき、他機関が所蔵する同種の資料との異同を調査し、資料としての価値を明らかにした上で、鮮明なデジタル画像を作成し公表した。

拓本以外の文字資料としては、元のパспа文字の印鑑15点、貨幣14点、銅錘1点、合計30点につき、他機関が所蔵する同種の資料との異同を調査し、資料としての価値を明らかにした上で、鮮明なデジタル画像を作成し公表した。なお印鑑は、それぞれが唯一無二のものとして同一資料は存在せず、当該分野に新たな資料を追加することとなった。

以上、資料の一部を紹介したが、これらの資料を、研究に供することが可能な鮮明なデジタル画像として、世界の研究者に公表できた意義は小さくない。

なお、長田夏樹氏旧蔵資料および古代文字資料館所蔵資料のうち、清の満洲文字資料の公開が遅れており、これからという状況である。すでにデジタル画像化し公表した女真文字資料と合わせて、女真文字の解読と満洲文字の判読を、今後の課題として進めたい。

日本における中国民族古文字の研究史に係わる成果としては次がある。言語学者の故長田夏樹氏が残した契丹文字研究に係わるノートおよびメモ類の調査により、初期の契丹文字の音価推定の経緯を明らかにすることができた。それとともに、1950年代という研究の初期の段階において、契丹語の文法研究もかなりの程度に進んでいたことも明らかにすることができた。

また、長田夏樹氏が残した資料の中に、契丹文字研究者の故豊田五郎氏の希少論文（手書きおよびワープロ論文）が存在していることも分かった。それを整理しウェブサイト上に公開することにより、この分野の研究に供することができた。

このようにして、長田氏と豊田氏の研究について、これまで知られていなかった契丹文字解読の側面を明らかにし、研究史の上に位置づけることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 28 件)

- ①吉池孝一、唐宋漢語の研究に供する契丹語等文献の目録について、『KOTONOHA』、査読無し、160号、2016年、45-46頁。
- ②吉池孝一、漢語音・漢字音などについて、『KOTONOHA』、査読無し、157号、2015年、1-6頁。
- ③吉池孝一、『蒙古字韻』篆字母の実用例—匣母字について—、『KOTONOHA』、査読無し、156号、2015年、1-2頁。
- ④吉池孝一、『蒙古字韻』篆字母の実用例—微母字について—、『KOTONOHA』、査読無し、155号、2015年、1-2頁。
- ⑤吉池孝一、八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の南陽等處毛胡蘆義兵百戸印—、『KOTONOHA』、査読無し、154号、2015年、1-2頁。
- ⑥吉池孝一、八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の管軍上百戸所之印—、『KOTONOHA』、査読無し、153号、2015年、1-4頁。
- ⑦吉池孝一、八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の管軍下千戸所印—、『KOTONOHA』、査読無し、152号、2015年、68-70頁。
- ⑧吉池孝一、八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の湖陽等處武勇義兵百戸印—、『KOTONOHA』、査読無し、151号、2015年、25-26頁。
- ⑨吉池孝一、八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の左阿速衛親軍都指揮使司百戸印—、『KOTONOHA』、査読無し、150号、2015年、42-43頁。
- ⑩吉池孝一、八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の「管軍總把印」—、『KOTONOHA』、査読無し、149号、2015年、41頁。
- ⑪吉池孝一、八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の「神山駅印」—、『KOTONOHA』、査読無し、146号、2015年、1頁。
- ⑫吉池孝一、1言語を複数の異なる文字で表記する貨幣銘文の出現、『KOTONOHA』、査読無し、144号、2014年、1-5頁。
- ⑬吉池孝一、朗君行記末尾の契丹小字と漢語訳、『KOTONOHA』、査読無し、140号、2014年、3-7頁。
- ⑭吉池孝一、西夏陵墓出土残碑(M2X:37+58+152)について、『KOTONOHA』、査読無し、139号、2014年、7-8頁。
- ⑮吉池孝一、西夏陵墓出土残碑(M2X:3+20+160+533+876)について、『KOTONOHA』、査読無し、138号、2014年、5-8頁。
- ⑯吉池孝一、東アジアの古文字と解読について、『KOTONOHA』、査読無し、136号、2014年、1-4頁。

- ⑰吉池孝一、『蒙古字韻』複製本の種類と特徴、『KOTONOHA』、査読無し、135号、2014年、1-4頁。
- ⑱吉池孝一、原本蒙古字韻的構擬、『KOTONOHA』、査読無し、134号、2014年、1-13頁。
- ⑲吉池孝一、關於八思巴字文献目録的編写、『KOTONOHA』、査読無し、133号、2013年、1-4頁。
- ⑳吉池孝一、擬似漢字について、『KOTONOHA』、査読無し、132号、2013年、17-20頁。
- ㉑吉池孝一、契丹文字と西夏文字、『KOTONOHA』、査読無し、131号、2013年、23-26頁。
- ㉒吉池孝一、字素排列法—關於漢字、西藏文字、契丹小字和訓民正音、『KOTONOHA』、査読無し、130号、2013年、1-8頁。
- ㉓吉池孝一、關於長田夏樹先生遺留的契丹小字解読工作的資料、『KOTONOHA』、査読無し、129号、2013年、1-9頁。
- ㉔吉池孝一、關於訓民正音の字素排列法、『KOTONOHA』、査読無し、128号、2013年、32-36頁。
- ㉕吉池孝一、關於契丹小字の字素排列法、『KOTONOHA』、査読無し、127号、2013年、1-4頁。
- ㉖吉池孝一、日僧行智の八思巴文字研究—資料(1818年)書誌—、『KOTONOHA』、査読無し、126号、2013年、26-29頁。
- ㉗吉池孝一、長田夏樹氏旧蔵図書目録I(古代文字資料館管理分)、『KOTONOHA』、査読無し、125号、2013年、1-5頁。
- ㉘吉池孝一、關於契丹小字後綴表(『慶陵』1953年刊)、『華西語文学報 契丹学專輯』、査読有り、第八輯、2013年、18-23頁。

[学会発表] (計 2 件)

- ①吉池孝一、「關於八思巴文字文献目録的編写」、元明漢語工作坊、2013年9月1日、中国浙江大学漢語史研究中心。
- ②吉池孝一、「字素排列法—關於漢字、西藏文字、契丹小字和訓民正音」、第五回韓漢語言学國際學術檢討会、2013年8月30日、中国浙江大学漢語史研究中心。

[図書] (計 2 件)

- ①吉池孝一、中村雅之、長田礼子、古代文字資料館、『遼西夏金元対音対訳資料選』、2016年、96頁。
- ②中村雅之、古代文字資料館、『パスパ文字漢語資料集覧』、2014年、269頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

・愛知県立大学サーバ上のウェブサイト「古代文字資料館」に、本科研で研究を進め、デジタル画像化した資料を公開した。

<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/museum/>

・兵庫県たつの市埋蔵文化財センター主催の特別展、「謎のパスパ文字と光明山」が2015年1月24日から2015年3月22日にわたり開催された。愛知県立大学の研究室が所蔵し、本科研で整理を進めたパスパ文字の諸資料を展示物として貸し出した。この分野の研究・教育の一助とすることができた。

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉池 孝一 (YOSHIIKE Koichi)

愛知県立大学 外国語学部 教授

研究者番号：30220586

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

中村 雅之 (NAKAMURA Masayuki)

愛知県立大学 外国語学部 非常勤講師